

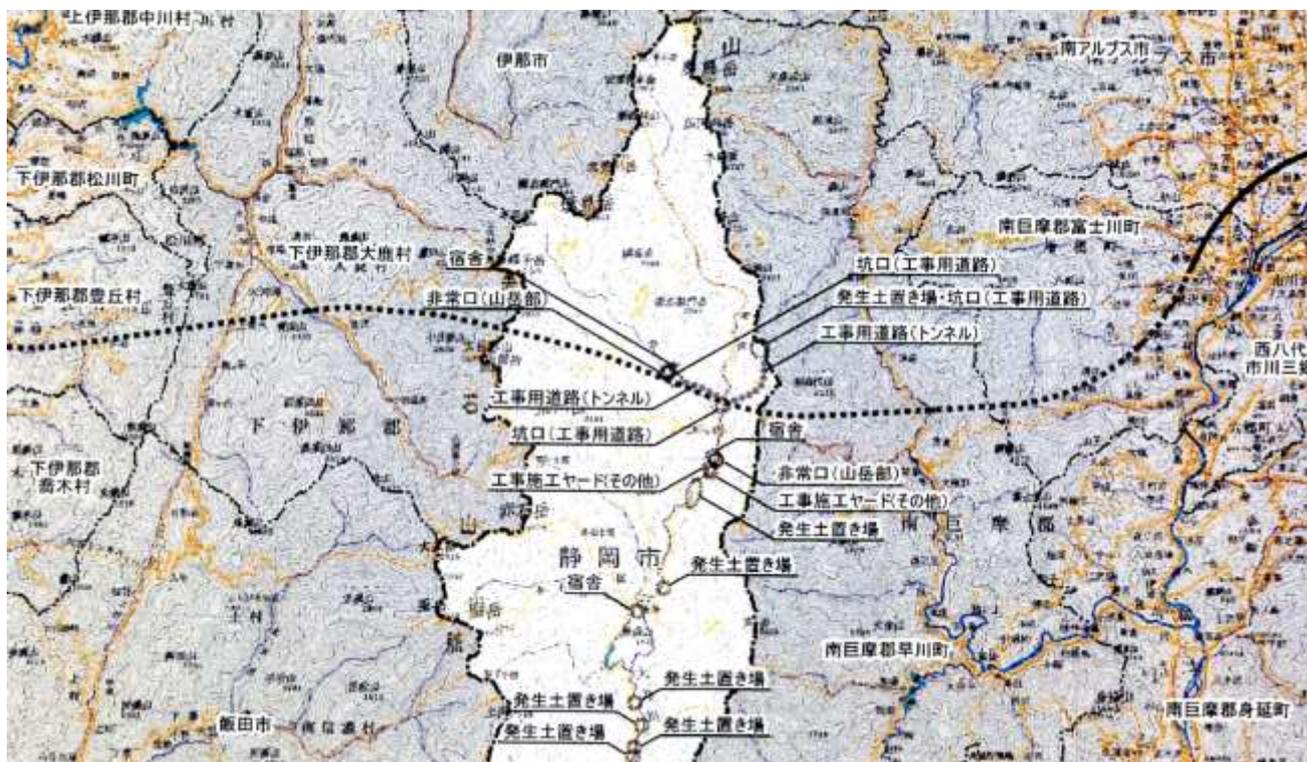
「リニアで南アルプスを壊さないで」 現地調査報告

2017年8月31～9月1日

全国労山・リニア問題検討委員会

現地調査参加者・浦添嘉徳、竹本幸造、久保典子

下図は、JR東海の環境影響評価書に添付した、大井川源流域（樫島、二軒小屋）の工事箇所



- ① 坑口（工事用道路）1カ所
- ② 工事用道路（トンネル）1カ所（ダンプが通れて、掘削度を運び出せる大きさ）
- ③ 非常口2カ所（ダンプが通れて、掘削度を運び出せる大きさ）
- ④ トンネル掘削による「発生土置き場」6カ所
- ⑤ 工事施工ヤード（その他）2カ所（工事に必要な大型重機・ダンプなどの置き場、給油スタンドの設置）、生コンクリート製造のためのプラントなどの建設
- ⑥ 作業員宿舎の建設場所3カ所

南アルプスの最深部に、工事のための街が出現する

—— 樫島（さわらじま）・二軒小屋周辺は ——

- ① 工事車両の通行量は二軒小屋付近で毎日約480台、樫島付近で約330台とされている。
- ② 700人の作業員が十数年間常駐する宿舎も建てられ、作業員の生活をサポートする人も含めると1,000人以上の人が住む町が出現する。

掘削した発生土の置き場となる燕沢（この場所には、長さ 800 ㍎、幅 50 ㍎、高さ 65 ㍎の掘削土の置き場となる）

2015 年 10 月に現地調査した時の燕沢土砂崩落状況（竹本理事調査）



【2015 年 10 月】

燕沢土砂崩落状況

* 大井川左岸に位置

* 砂防用 C o n ダムは数基設置されているが土砂で埋もれている



【中・下写真】

幅 50m × 高さ 65m × 長さ 800m 残土の大半が置かれる燕沢河川



2017年9月31日に現地調査した時の燕沢（竹本理事調査）



【2017年9月】

燕沢土砂崩落状況

＊大井川左岸に位置

その後林道にはみ出した土砂は搬出された様だが、堆積状況は2年前とさほど変わっていないように思えた。



＊2年前より著しく変わっていた燕沢残土置き場予定地

＊河川区域に入る程だが、河川法に抵触していないのか確認を要す

＊下流部は、広々と整地され、資材搬入用のヘリポートが造られていた。

【中・下写真】幅 50m×高さ 60m×長さ 800m残土の大半が置かれる燕沢河川



樫島（さわらじま）から二軒小屋に向かい、燕沢の上流の橋を渡った所に宿舎建設地が



この豊かな森の木は伐採されることに

宿舎予定地には、すぐに崖が



2017年10月1日、二軒小屋から大井川源流の西俣沿いに調査



大井川西俣は、崖が連なる
厳しい場所で道路も狭く、
大型ダンプが通ると、登山
者は道路の隅によって、ダ
ンプが通り過ぎるのを待つ
ような場所。

大井川西俣沿いに歩いて行くと、
二軒小屋から1時間のところに
中部電力の発電所が。手前のプレ
ハブは、リニアのための道路工事
作業員の事務所。
発電所は、プレハブの向こう。
道路工事が始まる前は、林道はこ
こが終点だった。



2015年10月調査時の大井川源流域の状況（竹本理事調査）



2015年10月
調査時状況
二軒小屋発電所から上流300
m程のところ
豪雨で、造った道路は崩落し、
大量の土砂は大井川に流さ
れる



2015年夏の豪雨で仮設橋の
左岸の基礎が流され決壊し
ていた。

【下の写真】

更に500m程行ったところ
やはり仮設道路の一部が崩
落し、大量の土砂が大井川に
*左岸から撮影



2017年10月1日、今回調査の大井川源流域の状況



【2017年10月1日】
2年前は橋脚が流失していた処だが、お幅の広い道路ができていた。車両通行用仮設橋梁。これで10年の使用に耐えられるのか疑問だ。
豪雨になると、また崩壊し、土砂は大井川に流される可能性は大きい。

*中左写真、橋の上にいるのが浦添理事長

*奥の建物は、二軒小屋水力発電所*更に500m程上流に設置してある左岸側への仮設橋



山を削って道路建設は進む。真ん中に白い建造物が中部電力の発電所



崖を削る作業や、土砂を運ぶ大型ダンプによる粉塵はすごい



さらに、仮設橋を渡って大井川源流域に



さらに源流域に進んでいくと、大型重機が出現。



東岳から流れ来る悪沢の下流で、土砂崩れの土砂の処理工事が行われていた。

その土砂の処理は、大型ダンプで運ぶのと、川幅を狭めて道路を広げている。これでは、豪雨が来ると土砂は流されてしまう。



悪沢を過ぎて、非常口（ずり出しの）最奥に建設されて*非常口（ずり出しの）最奥に設置されていた立派な鉄筋コンクリートの橋梁



【河川許可標と橋の工作物許可標識】
許可標には、東海旅客鉄道株式会社 中央新幹線推進本部 中央新幹線建設部長と記されていた。

立派な橋を渡ったところが、作業員宿舎建設予定地だった（二軒小屋から歩いて1時間30分）。



作業員宿舎予定地には、マンホールも設置されていた。

静岡県は、JR東海の環境影響評価に対する意見で、瀬滑雑排水による大井川の汚染対策を要請している。



作業員宿舎予定地の隅には、可憐な花たちが。

